

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立別所小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

- ・1・2年生担任とALTとでT・Tを組み、T1を各学級担任、T2をALTが担当して授業を行った。その際、授業内容についての打ち合わせ時間を事前確保して、授業がスムーズに進むよう、ALTと連携を図った。
- ・授業では、ALTが正しい発音を担当し、児童にネイティブな英語に触れさせるようにした。
- ・ゲームや歌を交えることで、楽しみがなら英語に親しむことができるようにした。
- ・ALTの国の文化や風習についても児童に積極的に話してもらうことで、国際理解教育にも取り組んだ。

イ 指導計画及び授業の内容

- ・各学期に2時間ずつ、合計6時間の計画で進めた。1・2年生の学習内容が重ならないカリキュラムを組み、指導を積みあがるようにした。
- ・1年生では、歌やゲームを交えて「あいさつ」「自己紹介」「10までの数」「色」「自分の体」「動物」「動き」についての言葉に慣れ親しんだ。
- ・2年生では、1年生の学習の上に、他国の文化（ハロウィン・クリスマス）についてALTの話聞くことで様々な国の様子に興味を持たせ、「20までの数」「果物」「形」「年齢」の言葉へと語彙を広げた。

(4) 情報提供の状況

- ・ HP や学級通信で1・2年生の外国語活動の様子を紹介した。その際、学習のねらい、活動状況（写真）、授業後の振り返りカード等を取り入れることで、保護者の外国語活動への理解を進めた。
- ・ 外国語活動での成果物（ワークシート・クリスマスカードなど）を教室掲示して、保護者来校時に見ることができるようにした。

(5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 : 平成28年4月1日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 令和2年4月1日
- ・ 取組の終期 : 令和5年3月31日

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・ 他国の言葉や文化に触れることで、児童は視野を広めることができた。また、自他ともに認め合う風土が、本校のめざす「人間性豊かな子」につながった。

(2) 実施の効果

- ・ ネイティブな英語により、児童が正しい発音で英語を話せるようになってきた。
- ・ 英語を聞いても動じることなく、言葉を理解しようとする姿勢が育ってきた。
- ・ 他者理解が進みつつある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・ 教師がALTとの交流を積極的進め、児童に異文化や英語を話すことのおもしろさを伝えるよう努力する。
- ・ 低学年に合う教材・教具の開発や、3年生から始まる外国語活動へと効果的につなぐ工夫が必要である。